

東港金属株式会社
東京都大田区京浜島2-20-4
電話 03-3790-1751
URL <http://www.tokometal.co.jp>
(見学受付)
電話03-3790-1751 又は 各営業担当

夏本番です。そしてあの3月11日に続き、今年は歴史に残る夏となりました。大震災の被災地である岩手、宮城、福島3県を除いて7月25日午前0時、アナログ波の送信が停止され、1953年に始まったアナログ放送の58年の歴史に幕が下ろされたのです。

種々の理由で対応の終わっていない家庭もあり、突然テレビが映らなくなって戸惑っている高齢者も多いとのこと。これを機にテレビは見ないことにするという人も現れていますが、テレビが唯一の友達という高齢者のためにも、大きなトラブルがなく、うまく移行することを祈ります。

また、このデジタル化移行に伴うもう一つのトラブルは、アナログテレビの不法投棄の激増というニュースです。回収に追われる各地の自治体は頭を悩ませているようです。困った問題です。

残された資源をできる限り循環させるよう、東港金属株式会社は処理をお受けした産業廃棄物のリサイクル率を上げるために、処理工程の工夫をしています。身近なリサイクルパートナーとして、お気軽にご相談ください



☆羅針盤

鉄・非鉄スクラップ・市況からの8月予測

営業部 Y の考察

- 鉄スクラップ** → 考察) 7月はスタートから月末時点迄変化はありませんが、東京製鉄宇都宮以外の地区では1000円/トンの上昇があったことから、8月は関東でも多少の上昇は予想されます。しかし、品薄のため横ばいになるでしょう。
- 銅** → 考察) 7月は銅建値800,000円/トン、LME9,300ドル/トンでスタート。建値10000円/トンあげ、月末には810000円/トン、LMEも9,700ドル/トンで終えた。ただ8月は社会情勢の変化、為替の影響で下がる予想されます。
- アルミ** → 考察) LME2,500ドル/トンでスタートしたあと、小刻みな上昇となり、月末は2,600ドル/トンで終わりました。8月は、自動車産業の生産回復により、多少ではありますが上昇するでしょう。
- プラスチック** → 考察) 原油は100ドル程度で落ち着いています、為替が77円/ドルでは下がると思われます。8月はさらに為替が下がるという見方もありますが、ペットボトルの価格上昇がみられますので、需要面からみると横ばいでしょう。

7月予測の自己評価

鉄スクラップ	○	アルミ	○
銅	○	プラスチック	○

☆羅針盤

非鉄金属スクラップの相場の決まり方

非鉄金属とは、文字通り「鉄」以外のすべての金属や合金の総称ですが、全世界にある金属材料の中では、鉄の生産総量が圧倒的に多いので、工業的・経済的に鉄以外の金属は「非鉄金属」として区分されています。

非鉄金属は鉄と同様、古くから自然発生的に再資源化マーケットが形成されており、循環型社会形成の上からもリサイクルの優等生と呼ばれています。

非鉄金属スクラップの発生源は、工場発生くずと市中発生くずに分けられます。そして、そのグローバル化したマーケットは、価格形成のメカニズムも複雑化しており、需給のバランスの影響をうけつつ、LME(ロンドンの非鉄金属専門の先物取引所)、ニューヨーク市場動向、中国国家備蓄局の動向、等々多様化していますので、相場動向は混んとし、先行きを読むのは容易ではありません。

一般的に各スクラップヤードディーラー(非鉄・鉄スクラップ問屋、輸出専門業者)のスクラップ購入価格は、国内メーカーの購入価格と輸出向けスクラップ価格(※1)から、各スクラップヤードディーラーが運賃、作業工賃マージンを差し引き、地区内での需給バランスを勘案して算定されます。

(※1)国際市況価格(LME、上海市場)と為替レート(ドル円)から計算されます

大震災後の需給逼迫により、価格に大きな流動幅がありますが、市中発生した建築関係の非鉄金属スクラップの価格形成メカニズムを例にとると右の図のようになります。

理論的に考えれば、回収業者等を通さず直接の国内非鉄問屋、輸出専門業者といったヤードディーラーに持込み、取引したほうが、発生源にとって良い価格(=高く)売却出来るということになりますが、実際には、発生源の地域性(地区内需給)、回収車両の運送効率化、どのように売却していくか(発生現場で細かく分別し単一素材化するのか、モーターやトランス、被覆電線、ラジエター、室外機、湯沸し機といった複合素材品として売却していくのか)等の要素があり、それぞれの発生源の状況によりベストルートは変わります。

そして非鉄スクラップの場合、どういった売り方をしていくかで大きく価格が変わります。銅を例にすれば、異物を除去し「上故銅」で売却するか、異物が少し付着したまま「込銅」で売却していくかにより、価格は大きく変わります(トン当たり1万円~3万円程度変わる)。売り方は様々ありますが、基本原則があります。それは、非鉄・鉄共通しますが、製品として使っていた原料に返すのが最も高い価格で流通させる方法ということです。例えば、銅板の切れ端(伸銅品)は、伸銅メーカー(板・条メーカー)に返すのがよいですし、砲金で出来たバルブ等は砲金インゴットメーカーや砲金鋳物メーカーに返すのが良いのです。



京浜島日記

(第8回)

再生エネルギー推進の機運から、当業界においてもサーマルリサイクル、ケミカルリサイクルといったものが加速度的に進んでいく雰囲気が出てきています。私たち中間処理場にとっては、地域から発生するスクラップ、廃棄物とユーザーが使用できる状態まで加工する、物流効率を上げる事ですが、その内容が変わっていくかもしれないという事です。

技術は日々進歩しており、私が業界に入った10年前ではまだまだサーマルリサイクルを推進していく事は大きなコスト増になる事がありました。状況は随分変わり廃棄物燃料市場も形成されて来ています。

廃棄物発電が進んでいくという事は、技術的な問題をクリアすることもさることながら、製造業の生産活動が活発であり、電気や廃棄物燃料のユーザーさんたちが積極的に利用してくれる事が大切です。つまり、ユーザーの使用状況に合わせてデリバリーすることも必要になってくるかもしれません。従ってストック能力も必要になるという事です。この事は何を表すでしょうか?

選別・加工技術の確立、加工コストの圧縮、燃料ストック能力、デリバリー運送コストの圧縮が求められるという事です。楽しみでもあり、転換期を正しい舵取りが求められる緊張感を持つ事でもあります。

(代表取締役 福田 隆)

